

記入上の注意点

1. 全般的な記入方法

数字はすべて半角で入力してください。

2. 職種別人数について

医療従事者のうち、非常勤医師や薬剤師・看護師の兼務については、おおよそで結構ですので以下の方法で算出してください。

原則として、非常勤医師や薬剤師・看護師の兼務(以下、非常勤医師等)については、1週間の当該病院の医師等の通常の勤務時間により換算して計算するものとします。ただし、1週間の当該病院の医師等の通常の勤務時間が 32 時間未満と定められている場合は、換算する分母は 32 時間とします。例えば、週 2 日(16 時間)勤務される方は $16/32=0.5$ となります。

3. RI 実投与量について

標準的な体格の成人に用いる放射能量(実投与量)を、検査ごとに集計して中央値を算出してください。検定時の放射能量から正確な投与量が計算できる場合は、RI の投与前後の放射能量を必ずしも測定する必要はありません。

記入に際して以下の点にご注意下さい。

- (1) 調査対象期間の検査ごとに、件数が多い場合は数十件程度を無作為に抽出して結構ですので、実投与量の中央値を算出して下さい。
- (2) 投与量は実際に測定した値、または投与時刻に減衰補正した投与量を使用してください。
- (3) 同じ規格の放射性医薬品であっても、実投与量を用いて下さい。例えば、シリンジタイプの放射性医薬品を午前 9 時に 2 人、10 時に 2 人、11 時に 1 人投与する場合は、それぞれの実投与量(必ずしも実測する必要はありません)を用いて集計して中央値を回答してください。
- (4) 自施設で標識して投与している場合、投与時点で目標とする投与量が決まっている場合は、実際の投与時の用量が多少ばらついても目標の実投与量の中央値を算出してください。
- (5) まれにしか実施しない核医学検査の場合は以下のいずれかで構いません。
 - a. 数か月あるいは 1 年間の投与放射能量の中央値
 - b. 標準的な手順における投与放射能量
- (6) PET 放射性医薬品の実投与量の算出も、同様の考え方で中央値を算出してください。なお、 ^{18}F -FDG PET の自動投与機を使用し、放射能量がほぼ推定できる場合は推定放射能量で結構です。

4. SPECT/CT および PET/CT の CT について

- (1) 標準的な体格の成人の SPECT/CT 検査および PET/CT 検査の CT が対象です。
- (2) 診断目的で行われた CT のみの撮像(PET/CT で別に撮像した胸部 CT など)は、本調査の対象に

含みません。

(3) 調査対象期間の検査の CTDIvol と DLP の中央値をご回答ください。件数が多い場合は、無作為に抽出した数十件程度の中央値で構いません。

(4) まれにしか実施しない検査の場合は以下のいずれかで構いません(回答数が少ない場合は、DRLとして非採用になる場合があります)。

- a. 数カ月あるいは1年間の中央値
- b. 標準的な手順における値

5. 調査項目について

以下の検査についての調査を予定しています(詳細は Web 画面確定後ご参照ください)。

(1) 一般核医学検査

骨シンチ、骨髄シンチ、脳血流シンチ、脳受容体シンチ、線条体シンチ、脳槽・脊髄腔シンチ、甲状腺摂取率測定、甲状腺シンチ、副甲状腺シンチ、肺換気シンチ、肺血流シンチ、RI ベノグラフィ、肝・脾シンチ、肝機能シンチ、肝胆道シンチ、心筋血流シンチ、心筋脂肪酸代謝シンチ、心交感神経機能シンチ、心プールシンチ、心筋梗塞シンチ、心アミロイドーシスシンチ、唾液腺シンチ、メッケル憩室シンチ、消化管出血シンチ、蛋白漏出シンチ、腎静態および腎動態シンチ、副腎皮質及び髄質シンチ、睾丸・精巣シンチ、腫瘍シンチ、腫瘍・炎症シンチ、ソマトスタチン受容体シンチ、リンパ管シンチ、センチネルリンパ節シンチ、RI アンギオグラフィ

(2) PET 検査

¹⁵O 標識ガス脳循環代謝検査、脳アミロイド検査、脳ブドウ糖代謝検査、悪性神経膠腫、心筋ブドウ糖代謝検査、心筋血流検査、腫瘍ブドウ糖代謝検査、炎症(大型血管炎)

(3) PET/CT および SPECT/CT の CT の CTDIvol と DLP について

SPECT/CT の CT

全身(頭部から大腿基部)、頭頸部、胸部、上腹部、骨盤部、上腹部から骨盤部、頸部から骨盤部、四肢、脳(減弱補正のみ)、脳(減弱補正+融合画像)、心臓(減弱補正のみ)、心臓(減弱補正+融合画像)

PET/CT 診療の CT

全身(頭部から大腿基部)、全身(頭部から下肢)、頭頸部、胸部、上腹部、骨盤部、上腹部から骨盤部、胸部から骨盤部、四肢、脳(減弱補正のみ)、脳(減弱補正+融合画像)、心臓(減弱補正のみ)、心臓(減弱補正+融合画像)

PET/CT 検診の CT

全身(頭部から大腿基部)、全身(頭部から下肢)、頭頸部、胸部、上腹部、骨盤部、上腹部から骨盤部、胸部から骨盤部、四肢、脳(減弱補正のみ)、脳(減弱補正+融合画像)、心臓(減弱補正のみ)、心臓(減弱補正+融合画像)

以上